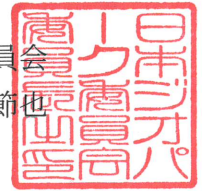


2024年1月9日

栗駒山麓ジオパーク推進協議会  
会長 佐藤 智 様

日本ジオパーク委員会  
委員長 中田 節也



### 第50回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2023年12月14日に行われた第50回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

#### 【総評】

質の高いジオパーク活動を展開しており、今回の再審査においても様々な進捗を確認することができた。前回の指摘事項についてはおおむね解決した。2008年岩手・宮城内陸地震から15年が経過し、地震災害からの復興と当時の記憶の継承が共に進められてきた。荒砥沢地すべり地では研究が進み、安全性が確認されたことから、見学可能な地域が広がった。また、当地の自然環境や風土を活かした生業を再興するとともに、関係者がジオパーク活動に参画し、災害の記憶を伝える重要な役割を担うようになった。

ジオガイドによる質の高いインタープリテーションの提供やジオツーリズムの推進、学校教育でのジオパーク学習などの成果も出てきている。これらの成果がもたらされた要因の一つに、事務局を中心としたボトムアップの安定的なジオパーク運営が挙げられる。一方で、管理運営計画のアクションプランからの分離、可視性の向上、ジオストーリーの充実、文化遺産の連携などの課題に取り組む必要がある。

#### 【優れている点】

- ・荒砥沢地すべり地の安定性が確認され、2023年から見学可能な地域が広がった。震災前の生業の復興と関係者のジオパーク活動への参画が大きな成果である。
- ・ジオガイドが創意工夫したインタープリテーションを来訪者に提供している。
- ・ジオパーク学習が市内全域の学校で行われるようになってきており、その成果が出てきている。
- ・認定商品プログラム「栗駒山麓のめぐみ」に参加する事業者が増え、地元企業のジオパークへの理解と参加が進んだ。
- ・優れたジオパーク活動が数多く展開されているのは、推進協議会事務局が地域と関係を築き、ボトムアップ活動を進めてきた結果であり、ジオパーク運営の1つのモデルとして高く評価できる。

#### 【今後の課題・改善すべき点】

##### I 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. 管理運営計画の運用：管理運営計画とアクションプランを分けて運用し、それらの中で事務局スタッフのキャパシティビルディングに関する項目を位置付けてほしい。また、管理運営

計画を独立して策定する際に、マーケティング（来訪者分析等）や、必要に応じて数値目標（KPI）の設定と、それらのモニタリング方法についての記述も検討してほしい。

## II できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

2. 可視性の向上：パートナー相当施設や関連施設に関して、ウェブサイトでも情報を発信するとともに、それぞれにジオパークの関連施設であることがわかるようにジオパークのロゴマークなどを表示し、ジオパークの可視性の向上を図ること。看板については、荒砥沢地すべり地にある林野庁設置看板をジオパークで再利用する際にも、看板へロゴマークの追加を検討してほしい。
3. ジオストーリーの充実：地形地質サイト間のつながりを知るためには、地球科学的な背景の説明を充実する必要がある。栗駒火山誕生前の火山活動は、本ジオパークの背景を知る上で重要と考えられる。さらに、伊豆沼・内沼形成史についても、地球科学的な背景を説明することができれば、地形地質と自然との関係がより深く理解できる。このためには、学術研究奨励補助金助成の指定枠を活用し、専門員が積極的に研究にかかわることによって、ジオストーリーの充実を図る必要がある。
4. 文化遺産の活用：文化遺産サイトおよび考古サイトとの連携や、無形文化遺産に関する情報発信の強化が求められる。居久根（文化景観・気候景観）や「ねじりほんによ」など、既存の制度で指定対象となっていない文化遺産や無形文化遺産についても調査を進め、ジオパークとして価値づけるための検討が必要である。

## III 中長期的に解決すべき事項

5. 地質標本販売の縮小・廃止と砂金取りの代替案の考案：引き続き関係者と地質鉱物標本の販売縮小・廃止とその代替案の立案に取り組んでほしい。その際、砂金取り体験の代替案の検討もあわせて行ってほしい。
6. 展示の拡充：ビジターセンターにおいて、火山や生態系、植生、地域文化などについての地球科学的見地から見た情報や展示のさらなる拡充が必要である。キッズコーナーには、遊びの中で学べる遊具の開発を期待したい。また、細倉鉱山資料展示室とのさらなる施設間連携を模索してほしい。
7. パートナースhip制度の検討：パートナースhip制度を用いて、協議会会員、認定商品参加事業者および地域団体との関係性を可視化し、共にジオパーク活動を推進する体制を整備することを検討してほしい。その際、パートナーとの共同研修会の開催など、キャパシティビルディングに取り組み、ジオパーク全体の質的向上を図ることも検討してほしい。
8. 気候変動への取り組み：本ジオパークの自然災害への取り組みは特筆されるので、これに気候変動への取り組みが加われば、ジオパークの活動がさらに広がると期待される。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上